

大しめ縄張りで無病息災を祈願

笛吹地区に江戸時代から伝わる伝統行事で、笛吹神社の秋の例大祭の大しめ縄張りが12月6日、笛吹神社で行われました。

今年は、日隠・笛吹地区の約30世帯の住民が新わらを持ち寄り、長さ約7㍎、重さ約300キロ、直径約50㍎の大しめ縄を朝8時から約5時間半かけて作り上げました。

完成した大しめ縄は、鳥居のそばの2本のマキの木の間に張られ、今年1年の豊作などへの感謝と、来年の無病息災・五穀豊穡が祈願されました。



特産品「アールスメロン」を販売

松浦メロンまつりが12月9日、海のふるさと館で開催され、市の特産品のアールスメロンを販売しました。

今年のアールスメロンは甘さは十分。市価より安いとあって、市内外の買い物客が詰めかけ、用意された約800玉のアールスメロンは飛ぶように売れていました。



卒業記念に壁画制作

鷹島小学校の6年生が11月20日、阿翁浦免の防波堤に卒業制作の壁画を描きました。

同校では、卒業生の思い出を刻もうと毎年実施。この日は長さ約40㍎の防波堤に、6年生27人がそれぞれイルカやクジラ、キャラクターなどをペンキで描きました。



ヴァイオリン演奏などに挑戦

1月に文化会館で公演予定の「OMURA室内合奏団」によるアウトリーチコンサートが11月19日から21日にかけて、市内の小中学校5校で行われました。

アウトリーチとは、子どもたちに音楽などに親しむきっかけを作ってもらうために、学校の教室など小スペースで行う演奏活動などのことです。

20日の志佐中（写真）では、1年生84人がヴァイオリン・ヴィオラ・チェロの3人の演奏を楽しんだ後、実際に楽器に触れ、演奏を体験しました。

ヴァイオリンに挑戦した湯浅貴信君（志佐・住吉通）は「緊張したけど、力を入れすぎないようにしたら音が出てうれしかったです」と話してくれました。



まちの話題



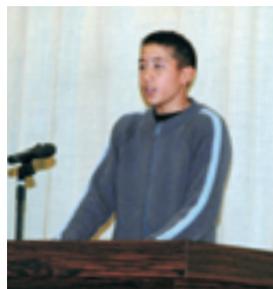
あつまれ志佐っ子弁論大会

「あつまれ志佐っ子弁論大会」が11月25日、志佐小学校体育館で開かれました。

子どもの意見を聞き、子育てを地域で考えようと、志佐地区青少年健全育成会（松田克弥会長）が企画したものです。

この日は、志佐小児童・保護者・地域住民約100人が参加し、児童の代表4人が、学力低下や地球温暖化、家族について意見を発表。学力低下について発表した山邊泰広君（志佐小6年、写真）は、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムを身につけることが「集中力」につながると発表しました。

また、弁論大会終了後、参加者全員で志佐音頭を踊ったり、劇を鑑賞したりして地域住民との交流を図りました。



加藤さん宅に「紅白キク」

11月中旬、加藤哲夫さん（御厨・大崎上）宅で、真ん中から白と赤紫の2色に分かれた「紅白キク」が開花しました。

草花が好きな妻の晴子さんが、5月に挿し木した小ギク50株の中の一つで、赤紫の花の中に、全体が白い花が一つあり、その隣に真ん中から線を引いたように2色に分かれたキクが開花していました。

晴子さんは「初めてのことなので驚きました。何かいいことがありますね」とうれしそうに話していました。



九電オープンデーの売上金を社協へ

九州電力松浦発電所（中西章夫所長、写真右）が11月29日、事業所オープンデーの売上金を松浦市社会福祉協議会（大畑安盛会長、写真左）に寄付しました。

同事業所は、市民に対する感謝の意と事業活動への理解促進を目的に毎年オープンデーを開催。うどんや関連会社で作っているお茶などを販売した売上金261,920円を、松浦市の福祉に活用してほしいと寄付したものです。

中西所長から寄付を受け取った大畑会長は「バス停などに設置しているベンチの購入や、年2～3回実施している独居老人の配食サービスなど、地域福祉の推進に役立てます」と話していました。



作品や舞台を披露

平成19年度市民文化祭が11月23日から25日にかけて、文化会館で開催されました。

展示発表では、書・絵画・写真・俳句・短歌・手芸・工芸・生花・茶道の約350点が披露され、舞台発表ではコーラス・日本舞踊・箏曲・フラダンス・社交ダンスなど63演目が披露。練習の成果を發揮した作品や発表に、会場を訪れた人たちは芸術の秋を堪能していました。



今福小児童が 雅楽に挑戦

今福小学校の3、4年生が12月7日、日本古来の音楽「雅楽」を体験し、笙・龍笛・箏の音色を楽しみました。

日本古来からの伝統音楽を身近に感じてもらいたいと、県神社庁雅楽部の協力を得て開催したものです。

同部所属の宮司3人が烏帽子に直垂姿で「越天楽」などの曲を披露した後、3、4年生55人が楽器に挑戦しました。

体験を終えた3年の松田紘歌さんは「楽器の名前や音色をはじめて聞きました。演奏してみるとなかなか音が出なくて難しかったです」と話していました。



原子力防災訓練を実施

長崎県原子力防災訓練が11月25日、長崎、佐賀両県で実施されました。

災害対策基本法や原子力災害対策特別措置法、地域防災計画などに基づく訓練で、防災関係機関相互の協力体制の強化と、住民の原子力防災に対する理解を図ることを目的に実施されたものです。

訓練には、市や県、警察、消防など15機関と九州電力(株)玄海原子力発電所から10キロ圏内にある鷹島町阿翁・阿翁浦・日比地区の住民、合わせて約300人が参加。「玄海原子力発電所4号機で原子炉が停止し、放射性物質の影響が鷹島町に及ぶ恐れがある」との想定で、災害対策本部の設置や海上と陸上における避難・誘導、放射線量を測定するモニタリングなど6項目の訓練を実施しました。

